

### 第3回 JRS/JCR 医療経済・政策勉強会 概要

日時：2021年10月6日(水) 1800~2000

場所：JRS事務局（web開催）参加者 39名

講演：

「がん」に関する社会課題を解決していくために

鈴木美穂 様

（認定NPO法人マギーズ東京共同代表理事、一般社団法人CancerX共同発起人、一般社団法人日本専門医機構理事、元日本テレビ記者・キャスター）

○講演後質疑 概要

#### ・医師に求める資質とは

⇒目の前の患者さんを見て欲しい。ICで理解出来ない患者さんもいるがそのままとなって相談に来る。

就業のことなど(すぐに辞めない)、妊孕性温存の話など極めて重要な事が多い。全てに医療者が対応出来るわけではないが、それらの重要性を理解して診療に当たって欲しい。告知後、全てを放擲してしまう患者さんもいる。そういったときに適切な声がけをするだけでも違う。

#### ・日本医療の質をどう思うか。

⇒患者からみると均てん化されていてよいが、情報が不足している。標準医療などへ情報が乏しく、社会への周知が少ない。医療ともいえない医療がまん延しているが、罰則がない。一方、情報開示は、進行例を扱う医療機関では成績が悪く見えるというようなことから開示が進まないのかという印象もある。

#### ・専門医のあり方について

⇒もっと細分化してもらったほうがわかりやすい。自由標榜性についても、一般の人はわからない。自分のようなジャーナリストであっても知らなかった。きちんと最新情報がアップデートされている医師が「専門医」としてほしい。

・画像診断医としての疑問（多数の画像を読むことで貢献・裏方として頑張るべきか、患者さんへ直接情報を伝える、表に出て行く(そういう能力を付ける)方向性はどうか。患者さんは、画像をとってもらったら、当然正診されると思っているか）

⇒画像検査を行われたら、基本的に正診されると思っている。ただし、実際に患者となった経験があると、見落としなどがあることは知っている(患者会などでも情報が集まる)。読影数が減るのは大変だが、現在では多職種連携も進んでいるから、病状説明などにおいても、画像に詳しい人が説明してくれる方が、信頼出来ると思う。ただ、聞きたくない患者もいる。Shared decision makingが

進んでいるので、今後さらに患者も勉強するようになると思うし、主治医のみでは十分な説明ではない、と感じるようになると思う。

#### ・医療の情報開示の重要性・自由標榜性の問題

⇒専門医取得のメリット、今後の整備について

・専門医の質を高めるためには、欧米のように、一定期間にもっと多くの症例での経験を積むなどの訓練が必要ではないか。

・「がんは放射線治療でなおるのか」、という質問がある。実際は根治できるのに知らない人が多い。市民公開講座は高齢や治療後の人が多いが、実際はもっと必要な年代の人に届けるにはどういった方法がいいか。

⇒Cancer Xなどまさにそうであるが、関心のない人も巻き込まないといけない。著名人を加えるのはそういった点で有効。専門家と経験者だけでは限界がある。ほかにイベントなどでも短時間でも話をするというのは効果的かもしれない。また、多様な「関わりポイント」を作る・多職種の人に関わってもらう。

#### ・乳癌検診について

⇒検査が面倒、怖い、ということもあるが、第1は「自分ごと」に思っていないということ。検査が少々不快でも、社会的に当たり前、という感じになるべき。我慢できないほどの検査ってあるのか？

ピンクリボン運動、は効果があるのか。むしろ逆効果かもしれないと感じる。「早期発見」しなかった人が責められている様な感じもある。早期じゃないなら治らない、という印象。「命を粗末にしないで」というような標語もどうか。ただ、検診受けましょうというより、正しい理解が必要。癌との共生といった情報も共有すべきである。スローガンのにはよくない。職場などで当たり前を検診を受けるといようにするとよい。

#### ・正しい診療情報の見分け方、「インチキの5箇条」など（高額な根拠のない自費診療の過大広告）

⇒癌に関する教育の重要性

#### ・地域での医療格差・情報格差を改善することが重要と考えるがいかがか。

⇒地域で専門ではない医師が見ている患者さんからの相談などもある。どこの病院でも標準治療が受けられるようにするのは難しいのか。（たとえばその専門医がいなくても）

若月先生：まず、放射線治療医は絶対数が少ないという実態がある。一方、標準治療に関しては、ガイドライン等で完全にしばってしまうと、実地で適用出来なくなる可能性もある。家庭環境(支援があるか)等でも、受けられる治療と、そうではない治療がある。多診療科で垣根を越えた連携が重要。地域医療に関しては、医師会の力も重要な場合がある。

⇒癌以外の疾患（認知症など）に対しても同様の施設(マギーズ東京のような、医療者も関わり患者および、ケアラー等にも支援を行う)を望む声がある。外部からは、医療界は、現場からの声を反映させるのが少ない様に見える。トップ同士が話し合う場はあるが。

・民間医療・根拠に乏しい高額な自由診療に関する最近の話題等

以上、多岐にわたる活発な論議が行われた。今後、市民公開講座等や、他の機会における意見交換等について、鈴木氏より賛同を得て、勉強会は終了した。

(了)